

FUJITSU Software NetCOBOL

購入例：Solaris

2020年9月14日時点

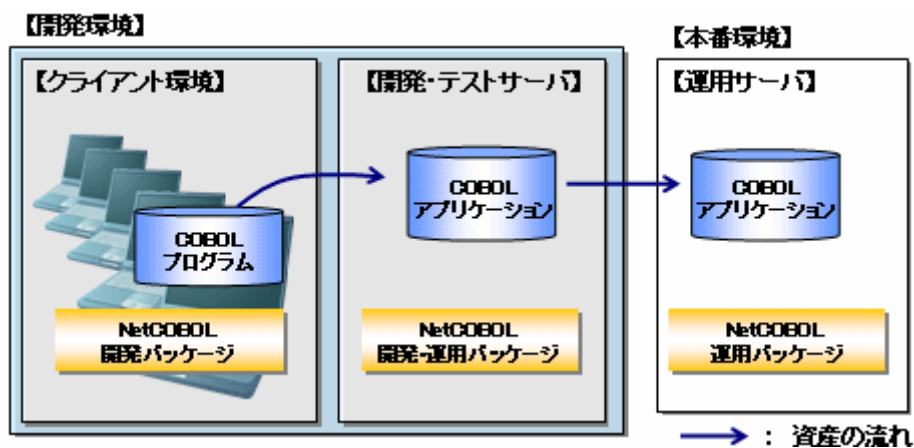
1. サーバアプリケーションを開発する場合	2
2. Interstage Application Server と連携したアプリケーションを開発する場合	4
3. Interstage Business Application Server と連携したアプリケーションを開発する場合	6
4. Interstage Job Workload Server と連携したアプリケーションを開発する場合	9

1. サーバアプリケーションを開発する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、開発環境（NetCOBOL Studio）を使って、COBOL アプリケーションをリモート開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。

Windows 開発環境による開発



【開発環境】

クライアント環境では、Windows (32bit)環境 PC (5 台) で開発環境（NetCOBOL Studio）を使って、リモート開発します。

開発・テストサーバ（Solaris : 8 プロセッサ）において、クライアント環境で作成した COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。

【本番環境】

テスト終了後、運用サーバ（Solaris : 8 プロセッサ）に COBOL アプリケーションを配備し、運用します。

必要ライセンス

Windows の NetCOBOL 開発環境製品はインストール台数従量制、Solaris の NetCOBOL 開発環境および運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。NetCOBOL 製品のライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

32bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Windows NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit) (注 1)	5
開発・テストサーバ	Solaris NetCOBOL Professional Edition 開発・運用パッケージ (32bit)(注 2)	8
運用サーバ	Solaris NetCOBOL Standard Edition 運用パッケージ (32bit)	8

注 1) 上記購入例は、「開発・保守支援ツール(テスト作成支援)を使って開発」する場合です。クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。

注 2) Windows システム上で Solaris アプリケーションを分散開発するには、サーバ側の製品は、Professional Edition または Enterprise Edition の組合せとなります。詳細は、マニュアル「NetCOBOL UNIX 分散開発の手引き」を参照してください。

64bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Windows NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit) (注 3)	5
開発・テストサーバ	Solaris NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (64bit)	8
運用サーバ	Solaris NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (64bit)	8

注 3) 上記購入例は、「開発・保守支援ツールを使って、画面帳票があるサーバアプリケーションを開発する場合」です。クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。また、リモート開発で 64bit アプリケーションを開発する場合は、V10.5.0 以降を使用してください。

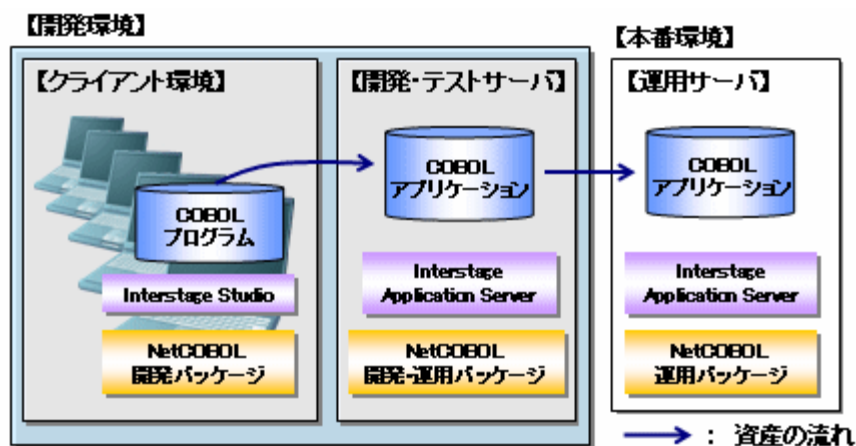
なお、リモート開発で V10.5.0 を使用する場合は、Windows 環境の NetCOBOL に Solaris(64bit)対応の修正を適用する必要があります。修正の入手については、弊社の担当営業・SE にお問い合わせください。

2. Interstage Application Server と連携したアプリケーションを開発する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、Interstage Studio を使って、COBOL アプリケーションをリモート開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。

Windows 開発環境による開発



【開発環境】

クライアント環境では、Windows (32bit)環境 PC(5 台)で、Interstage Studio を使って、リモート開発します。

開発・テストサーバ(Solaris : 2 プロセッサ) において、クライアント環境で作成した COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。

【本番環境】

テスト終了後、運用サーバに COBOL アプリケーションを配備し、運用します。

必要ライセンス

Windows の NetCOBOL 開発環境製品はインストール台数従量制、Solaris の NetCOBOL 開発環境および運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。NetCOBOL 製品のライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

32bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Windows (32bit) Interstage Studio Enterprise Edition	5
	Windows NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (32bit) (注 1)	5
開発・テストサーバ	Solaris Interstage Application Server Enterprise Edition	2
	Solaris NetCOBOL Professional Edition 開発・運用パッケージ (32bit)(注 2)	2
運用サーバ	Solaris Interstage Application Server Enterprise Edition	2
	Solaris NetCOBOL Standard Edition 運用パッケージ (32bit)	2

注 1) 上記購入例は、「帳票があるサーバアプリケーションを開発する場合」です。クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。

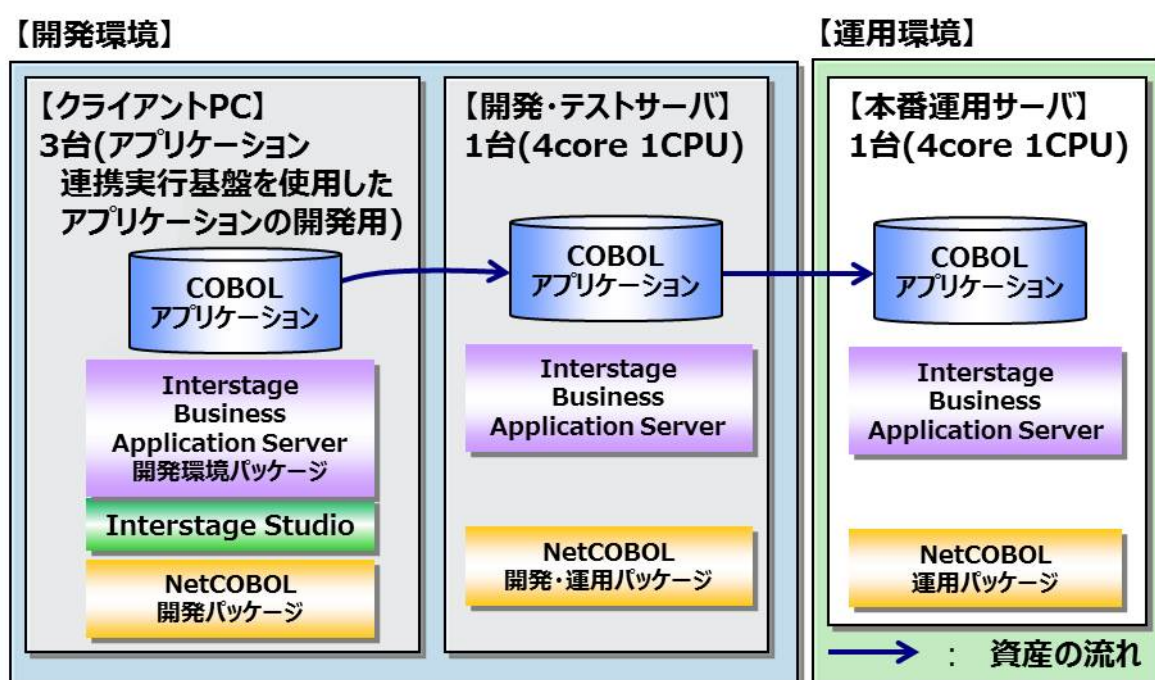
注 2) Windows システム上で Solaris アプリケーションを分散開発するには、サーバ側の製品は、Professional Edition または Enterprise Edition の組合せとなります。詳細は、マニュアル「NetCOBOL UNIX 分散開発の手引き」を参照してください。

3. Interstage Business Application Server と連携したアプリケーションを開発する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、COBOL アプリケーションを開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。

開発・運用環境



【開発環境】

クライアント PC は Windows (32bit)環境(3 台)で、Interstage Studio を利用しアプリケーション連携実行基盤を使用して COBOL アプリケーションを開発します。

開発・テストサーバ (Solaris、4core 1CPU) に、クライアント PC で作成した COBOL アプリケーションを、リモート開発機能を使用してコンパイル・リンクし、配備してテストを実施します。

【運用環境】

テスト終了後、運用サーバ(Solaris、4core 1CPU)に COBOL アプリケーションを転送後、配備して運用します。

必要ライセンス

Windows の NetCOBOL 開発環境製品はインストール台数従量制、Solaris の NetCOBOL 開発環境および運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。NetCOBOL 製品のライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

32bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Interstage Business Application Server 開発環境パッケージ(注 1)	-
	Interstage Studio Standard-J Edition(注 2)	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit) (注 3)(注 4)	3
開発・テストサーバ	Solaris (32bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Solaris NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (32bit)	2
運用サーバ	Solaris (32bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Solaris NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (32bit)	2

注 1) Solaris (32bit) Interstage Business Application Server Standard Edition に同梱されています。

注 2) Interstage Business Application Server に同梱されています。(1 ライセンス利用可能です)

注 3) アプリケーション連携実行基盤を使用しないアプリケーションは、NetCOBOL Enterprise Edition 以外のエディションでも開発可能です。

注 4) リモート開発機能が利用可能なバージョンをご確認ください。

64bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Interstage Business Application Server 開発環境パッケージ(注 5)	-
	Interstage Studio Standard-J Edition(注 6)	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit) (注 7)(注 8)	3
開発・テストサーバ	Solaris (64bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Solaris NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (64bit)	2
運用サーバ	Solaris (64bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Solaris NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (64bit)	2

注 5) Solaris (64bit) Interstage Business Application Server Standard Edition に同梱されています。

注 6) Interstage Business Application Server に同梱されています。(1 ライセンス利用可能です)

注 7) アプリケーション連携実行基盤を使用しないアプリケーションは、NetCOBOL Enterprise Edition 以外のエディションでも開発可能です。

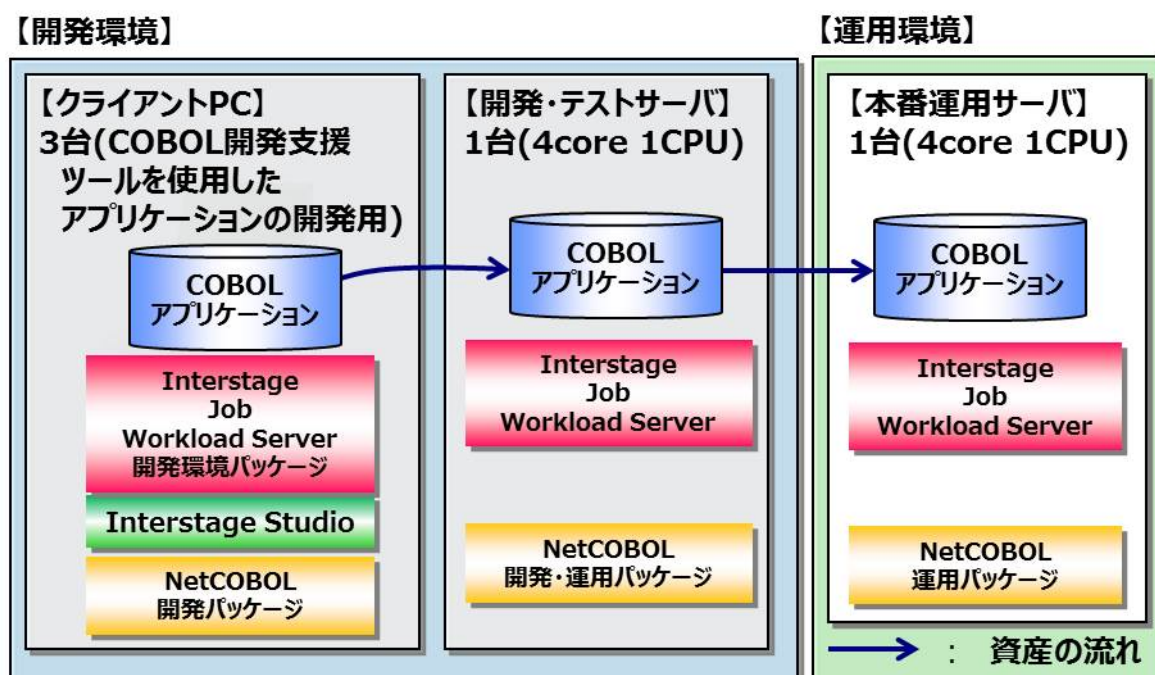
注 8) リモート開発機能が利用可能なバージョンをご確認ください。

4. Interstage Job Workload Server と連携したアプリケーションを開発する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、COBOL アプリケーションを開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションのテストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。

開発・運用環境



【開発環境】

クライアント PC は Windows (32bit)環境(3 台)で、Interstage Studio を利用し COBOL 開発支援ツールを使用して COBOL アプリケーションを開発します。

開発・テストサーバ (Solaris、4core 1CPU) において、クライアント PC で作成した COBOL アプリケーションを、リモート開発機能を使用してコンパイル・リンクし、配備してテストを実施します。

【運用環境】

テスト終了後、運用サーバ(Solaris、4core 1CPU)に COBOL アプリケーションを転送後、配備して運用します。

必要ライセンス

Windows の NetCOBOL 開発環境製品はインストール台数従量制、Solaris の NetCOBOL 開発環境および運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。NetCOBOL 製品のライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

32bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Interstage Job Workload Server 開発環境パッケージ(注 1)	-
	Interstage Studio Standard-J Edition	3
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit) (注 2)(注 3)	3
開発・テストサーバ	Solaris (32bit) Interstage Job Workload Server	2
	Solaris NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (32bit)	2
運用サーバ	Solaris (32bit) Interstage Job Workload Server	2
	Solaris NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (32bit)	2

注 1) Solaris (32bit) Interstage Job Workload Server に同梱されています。

注 2) COBOL 開発支援ツールを使用しないアプリケーションの開発は、NetCOBOL Enterprise Edition 以外のエディションでも開発可能です。

注 3) リモート開発機能が利用可能なバージョンをご確認ください。

64bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Interstage Job Workload Server 開発環境パッケージ(注 1)	-
	Interstage Studio Standard-J Edition	3
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit) (注 2)(注 3)	3
開発・テストサーバ	Solaris (64bit) Interstage Job Workload Server	2
	Solaris NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (64bit)	2
運用サーバ	Solaris (64bit) Interstage Job Workload Server	2
	Solaris NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (64bit)	2

注 1) Solaris (64bit) Interstage Job Workload Server に同梱されています。

注 2) COBOL 開発支援ツールを使用しないアプリケーションの開発は、NetCOBOL Enterprise Edition 以外のエディションでも開発可能です。

注 3) リモート開発機能が利用可能なバージョンをご確認ください。